

20.[健康・医療・福祉]

吉田町田井地区 公立雲南総合病院(スタッフ研修)について

Q339

雲南病院の問題については、人的な部分ではスタッフの研修会などが必要であり、待ち時間が長いことについてはアイデアを出しあい予約方式などで調整をしていくことも必要ではないか。

A：スタッフ研修等については、管理者として（病院に）伝えます。健全化については、現在策定中の経営改革プランに基づき今後進めていくこととなります。市立病院化の可能性についても今後検討していきます。（市長）

掛合町掛合地区 公立雲南総合病院経営健全化について

Q340

雲南病院はここに住む私たちにとって中核を担う病院であり、雲南市の病院であるという思いが強い。ぜひとも財政の健全化を望む。

病院の財政が悪化したのは今年度になって急にということではないと思うが、なぜ今頃検討なのか。「病院のあり方を早急に検討する」というのは、いつごろまでなのか。また、例えばプロジェクトを組むとか医療スタッフを充実させるなど方法はあるだろうが、市としてはどのようなことを考えているのか。

A：これまでは、赤字を補うための預貯金がありましたが、それが平成19年度で底をつきました。このままいくと、支払うものも支払えなくなり倒産ということになるので、足りない分を雲南市・飯南町・奥出雲町の1市2町で財政支援をしました。この件については、議会でも説明しご理解いただいていることと思っています。

なぜ、経営が悪化してきたのかという根本的な理由には、医師・看護師不足があります。さらに、よその病院に比べて人件費も多いこともあります。

短期的な対策としては、財政的に足りない部分を補い、長期的には医師などのスタッフ不足を解消していく必要があります。また、同規模の病院と比べて支出が突出して多い部分を見直し、財政体質を見直さなければなりません。

ただし、不採算部門でも雲南の医療に不可欠である診療部門については市民の皆さんの理解を得ながら継続していきます。1市2町で運営していますが、雲南市と病院は一心同体だという思いで取組んでいきます。改革プランを策定中です。（市長）

掛合町波多地区 波多出張診療所の移転について

Q341

波多出張診療所が老朽化しており、立替を希望していたが、ふるさと活性化センターができたので、移設できないか。

A：波多出張診療所の改築については合併前から聞いていました。その後、ふるさと活性化センターが利用できる（そこへの）移転要望と理解しています。

現在の出張診療所の状況は、内科と外科診療を毎週金曜日午後行っています。診療日は年50回、月平均4回。内科受診人数は年間609人、平均すると月50.7人、1日12.2人の利用があります。内科設備は整っておらず、尿検査等はすぐにはできなく、病状の変化等はつかみにくい状況です。歯科は年間148人、平均月12.3人、1日2.9人で、設備は大変古く、処置に時間がかかっています。近年の受診者は、車の運転ができない高齢者の方が多く、減少傾向にあります。

ふるさと活性化センターへの移転は、内科についてはプライバシーのために改修を行えば可能ですが、経費の面があるので地域のみならず、診療所、雲南市で協議させていただきたいと思います。

## 平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

歯科については、機器が古く、そのままの移転は困難です。新規で購入すれば1,000万円かかります。レントゲンについて、現在のままで仕切りが要りませんが、新規移転すればレントゲン室も造ることになり、床下給排水の設備も必要で経費が大変かかります。現在考えるところは、今後は市民バス等を利用していただき、掛合診療所で受診していただきたいと考えていますのでご理解をお願いします。（健康福祉部）

### 掛合町波多地区 波多地区でのミニデイサービス実施について

Q342

掛合町のデイサービスの利用希望に対して、供給が間に合っていない状況があるように聞いている。旧波多保育所を利用して、波多地区でのミニデイサービスができるか。

A：ミニデイサービスについては、雲南市社会福祉協議会や福祉会にお願いしています。すぐには対応が困難です。

平成21年度からの介護保険第4期の計画を今年度立てる予定にしており、地域の介護整備について、今の状況を踏まえて計画を立てたいと考えています。（健康福祉部）

### 三刀屋町一宮地区 公立雲南総合病院(副管理者問題)について

Q343

雲南病院のことが資料に書いてありますが、経済的に立て直す考えで元副市長さんを派遣されたのではないかと思います。ほかの事に気持ちを移しておられたようで、市長さんとしてどのようにお考えか。

A：雲南病院は医師・看護師不足で入院・外来患者が減り、売上が下がりました。基金を崩して頑張ってきましたが、底を尽きました。医師確保対策が必要だが、平成16年の研修医制度の改正で若い医師は都会へ出てしまって、田舎は医師が減っています。

今後は大学病院・島根県・国とのつながりをつけることが重要になってきています。行政経験のある人材が常勤して、県などに働きかけていただく予定でしたが、JA雲南の一連の不祥事で大東町出身の理事が退任され、後任を大東町から出すとの地元の意向があり、私としては依頼があっても断るようにと伝えましたが、受けざるをえない状況であり、本人と地元の判断にゆだねる事にしました。内定後は、JA役員人事に口を出すことにもなり静観していたが、総代会で理事に決定し病院を退職されました。感想としては失敗だったと思います。JAの事件がなければ引き続いて担当していただいていたと確信しています。（市長）

### 三刀屋町飯石地区 公立雲南病院副管理者の件について

Q344

副管理者についていろいろ問題があったが、今後も設けられるのか。給料も高いのに無駄ではないか。まさか元内田副管理者に短期間中の退職金など出してないとは思いますが、どうされたか。

A：今までも常勤で副管理者はおられました。もっぱら内部事務の担当で、医師不足などに対応するために、国や県と連携をとるのに、行政経験の豊富な常勤の副管理者がいけないと考え、元内田副市長にお願いした経緯がありました。早めに後任の副管理者になっていただける方を探していますが、なかなか見つかりません。前副管理者は在職中の給料は全額返還され、退職金ももちろんありませんでした。（市長）

### 三刀屋町中野地区 要介護・要支援者増加に伴うサービス事業実施について

Q345

中野の地域づくりを進めるのに、どうしても少子高齢化に関する福祉問題を基本にしなければすべてが軌道

に乗らない現実がある。要介護・要支援者増加に伴うサービス事業の実施についてですが、要介護者や要支援者にとって何より大切なことは、多年にわたり住み慣れた土地で、しかも顔なじみの皆さんと共に介護サービスが受けられることが、本人や家族にとって一番安心であり、望ましいと考える。

そこで、当地区の中心地に位置する中野多目的集会センターの一部を改造し、小規模型通所介護事業所開設を目指して、現在関係機関と協議中である。なお、この多目的集会センター利用については農林省からの補助金、雲南市の条例や指定管理者制度等さまざまな問題もあるが、地域の現状や課題を踏まえてこの事業が円滑に実施できるよう、行政上の配慮を望みたい。

現在、デイサービスを受けようと思っても、三刀屋健康福祉センターや伊萱のだんだんは満員で行けないので、掛合の施設まで行ってサービスを受けておられる方もある。高い介護保険料を払いながらサービスが受けられない現実がある。こういう状態だからこそ中野地区でデイサービスが出来るような施設を作りたいが、市の考えはどうか。

A：中野多目的集会センターの一部を改造し、小規模型通所介護事業所として利用したいとのことですが、これからますます少子高齢化が進む中で、地域に密着した介護施設、介護予防の取り組みが必要とされているところです。

中野多目的集会センターは雲南市が進めています地域自主組織の活動拠点であります交流センターと位置づけ、地域福祉活動や住民活動、生涯学習活動がこれまでどおり取り組めることを基本としています。通所介護事業を交流センターの一部で実施することは地域福祉活動充実につながります。しかし、他の地域福祉活動や住民活動、生涯学習活動の出来るスペースは確保していただき、他種間業務に支障が出ないように、地域自主組織内での共通理解が必要であると思えます。

ここの中野多目的集会センターは、国・県の補助金事業で設置されておりますので、利用計画の変更協議が必要となってきます。先般、指定管理者であります「中野多目的集会センター管理委員会」から通所介護施設として利用要請が出ましたので、現在、県と事務協議を行っており、回答待ちの状況です。（健康福祉部）

A：施設の改修では、諸条件・法律の規制がクリアできれば、また交流センターとしての機能が損なわれないように心がけていただければ可能です。今後、市有施設にも空き施設が出てくることも考えられ、それらを有効活用することも考えて、センターの改修は必要最小限でされるのがいいと思えます。改修にあたってはいろいろと協力したいと思えます。また相談していただきたい。（市長）

### 三刀屋町中野地区 高齢者向け自家用車の有償移送サービスについて

Q346

自家用車の有償移送サービスの実施についてですが、当地区独居高齢者の世帯数は年々増加し、現在約20世帯あり、今後もますます増えることが予想されます。このような中で、運転できない高齢者は病院や金融機関及び買い物等の交通費が重くのしかかっている。

そこで、何らかの方法で有償移送サービスができないものだろうか模索中だ。高齢者の皆さんが安心して暮らせる地域づくりのためにも、移送を必要とする人を登録制とし、個人負担軽減で便宜を図りたい。また、当地区と同じよう有償移送サービスを実施してられる先例があれば教えていただき、参考にしたい。

A：自家用有償移送サービスには2種類あり、福祉有償運送と過疎地有償運送です。道路運送法第79号で「自家用有償旅客運送を行う場合は国土交通大臣の行なう登録を受けなければならない」とされています。例えば雲南市内におきまして福祉有償運送を実施するためには、有識者による福祉有償運送の運営協議会におきまして、その必要性や運営形態等について協議をしながら合意を得た上で、関係書類を添えて事業者の方が中国運輸局に申請することになります。実施にあたって、営利を目的としない法人等で、具体的には社会福祉法人・NPO法人・医療法人・商工会などが該当になります。

また、サービスの対象者はある程度、限定されている部分があり、原則、要介護者・障害者等で公共交通機関の利用が困難な方が、あらかじめ会員登録して実施するような条件がついてきます。運営協議会

## 平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

での審査は、地域での一般タクシーの台数とか福祉タクシーがあるかどうかとか、市民バス・タクシー等の交通機関との兼ね合いなどを確認し、本当に必要かどうかを検討されます。過疎地域有償運送では地域が限定され、指定地域内しか運行できないという条件がついています。

また、雲南市内での先例は、大東町地内を運行区域として許可を受けられたNPO法人ほっと大東さんが車椅子・寝台対応車両を利用しないと移動が困難である方を対象として福祉有償運送を実施されています。あらかじめ会員登録する手段として運送業界・NPO法人・包括支援センターの担当者等により2ヶ月に1回の割合で判定会議を開催し、名簿に搭載する対象者であるか必要性について協議・決定を行っています。（健康福祉部）

### 加茂町(中村昭和星野雲並・東谷・砂子原・中村団地・東谷団地) 公立雲南総合病院の市立病院化について

Q347

雲南病院の市立病院化を是非していただきたい。市立病院化した場合、何がかわるのか。

A：奥出雲町、飯南町ともに町立病院を持っておられ、自分のところの病院を維持するだけで精一杯であり、公立雲南総合病院を市でやってほしいと言われていました。

20年3月に約2億円の財政支援を行い、うち市は1億9,800万円を負担しました。

患者への影響はありません。市の直営にするのか、独立行政法人にするのかは手法の問題です。

市の職員となると給与問題や組合との問題もあります。今後よく検討しないといけませんので、今しばらく検討の時間が必要ですのでご理解を頂きたいと思います。（市長）

### 加茂町(大崎猪尾・銅鐸の里岩倉・中山団地) 公立雲南総合病院(医師確保)について

Q348

夜間、救急車の受け入れをしてもらえなかったと聞いた。医師不足が深刻。1ヶ月に1度しか来られない先生もいる。医師確保に対策はどうか。また、国、県等への要請はどうか。

A：平成14年には30人おられたのが18人になりました。特に内科医の不足が顕著です。常勤医師は10人であったのが3人となり、7人を非常勤医でカバーしています。

夜間の救急時の対応が医師不足により限られていることも事実です。地方勤務を希望する医師の研修先や、子育て中の医師への対応などを含めて、島根大学医学部と連携強化して努力していますのでご理解を頂きたいと思います。（市長）

### 木次町斐伊地区 今後の公立雲南総合病院経営健全化について

Q349

雲南病院について 休診のお知らせが多い。とても中途半端な病院であり、ちょっとした病気であればかかりつけの医師を勧められ、大きな病気であれば松江や出雲の病院を勧められる。赤字が毎年増えていくようではいけないと思うが、今後の病院をどう考えておられるのか。

A：なんといっても医師不足が問題であり、平成14年ピーク時30人いた常勤医師が現在は18人で特に内科は正職員10人が3人となりました。足りないところは臨時に頼っており、常勤ではないので入院、外来に影響がでています。今後はできるだけ内科の医師を確保していきたいと考えており、中途半端な病院といわれたい様子がありません。（市長）

### 木次町斐伊地区 介護予防について

Q350

住民の健康づくりや地域社会の介護予防活動に対して、学習機会や情報の提供、施設の付与、経費の支援など充実した決め細やかなサービスの提供ではないかと考えている。

平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

はたして、どのようなサービスの提供がなされているのかお尋ねする。  
また、今後予防対策のための組織づくり等の計画は無いかについてもお尋ねする。

A：現在、雲南市では、介護予防施策としましては、大きく分けて「一般高齢者施策」と「特定高齢者施策」の二つを実施しております。これは、平成18年4月の介護保険制度改正により、みなさまからいただいた介護保険料の一部をこの介護予防活動にあてるようになっております。

一般高齢者施策は、一般に言われています元気高齢者を対象に実施する事業で、「おちらと足腰まめな塾」(昨年度までは転倒予防教室でした。)ケアポットよしだのプールを利用し、身体教育医学研究所うんなんの指導で転びにくい体づくりに取り組んでいます。また、巡回型介護予防事業、介護予防講演会や健康教育等実施しています。

特定高齢者施策としては、特定高齢者(要介護状態になる事を予防していく必要のある方：25項目の基本チェックリストを行い、特定高齢者の候補者となった方は医療機関で生活機能評価を受けていただき決定する)を対象に「はつらつデイサービス」を市内29ヶ所で開催しています。

また、その他、配食サービスや生活支援ヘルプ、生活支援ショートステイ等のサービスも提供しております。

今後は、地域交流センター構想の中で、地域ぐるみで介護予防活動に取り組んでいけたらと思っております。障害や認知症になっても、住み慣れた地域で、地域の見守りの中で安心して暮らせる町づくりが大切になっていくと思っております。

なお、全市民的に特に力を入れたい取り組みとしては、市民の皆さんが生涯に渡って日常的に運動をする習慣を身につけて頂き、「高齢期になっても元気に外出できる環境づくり」を強力に推進してまいりたいと考えます。

そのために、身体教育医学研究所をシンクタンクとして活かし、家庭や地域で日常的にできる運動プログラムの提供や「地域運動指導員」という身近な指導者の育成をしているところです。いずれにしても、豊かな自然環境や体育館や学校及び公民館などの施設の有効活用の推進。温泉などの地域資源への着目。温水プールによる水中運動の普及などいろいろ考えられますので近く具体的な計画をまとめたいと考えています。

雲南市は、全国的にも健康長寿の傾向が示されてきましたが、その原因を分析し、さらに元気な高齢者の多い地域となるよう「生涯現役のまちづくり」を基本施策として推進してまいりたいと考えておりますので宜しくお願いいたします。(健康福祉部)

木次町西日登地区 公立雲南総合病院経営健全化について

Q351

市立病院化の検討委員会を設置と言うことだが、一般市民にも参加が可能か。またいつまでに結論をだすのか。

A：今後専門的な委員構成を検討していますが具体的にはこれからです。大東、加茂には雲南病院を支える会などがあり、地域の意見が反映される場を設けて連携をとりたいと考えています。また今年度末には方向性が出せればと思っております。(健康福祉部)

Q352：[地元医師との連携について]

地元医師との連携はどのようにしているのか。

A：地元医師会と相談し、開業医や診療所の医師が診療や手術に立ち会うといった取組みがなされつつあると聞いています。(健康福祉部)

Q353：[病院の耐震化について]

建物の耐震度についても質問しているが、雲南病院は耐震基準を満たしていないとのことだが、入院病棟も

## 平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

あるので早急なことではないのか。

A：本館は昭和43年に建築されていると記憶しています。これも大きな課題として早急に耐震化について方向性をだしていかなければならないと考えています。（健康福祉部）

Q354：[人事について]

副管理者の人事についてどう考えているのか。

A：統括副管理者を置くことで就任いただいたが、諸事情により6月21日に退任されました。管理者の必要性については、現在市長が非常勤管理者でほかに常勤の副管理者がいます。この副管理者は病院の内部事務に追われてしまうため、医師確保のために大学病院や、国・県といった機関と頻繁に連携をとるには常勤の副管理者が必要と考えています。これから人選をしていきたいと思えます。（市長）

### 木次町日登地区 公立雲南総合病院経営健全化について

Q355

公立雲南総合病院の健全化について。医師不足は大きな問題、私は雲南病院にかかっている。予約制なので、その時間に待っていると、ずいぶん待たされる。その間、何の説明もない。「もう少し待ってください」の一言もない。根本的に考え直していただかないと。雲南病院は小児科以外は午前中のみ。他の病院では午後はもちろん、土曜日でも診察してくれる。医師が不足しているのであれば、なおさらサービスの充実を。

A：診察時間、悪いサービス状況とのこと。管理者として心からお詫びします。平素から、患者への説明責任を果たすことがまず第一だと思っています。病院はある意味ではサービス業。患者様に嫌われたらどうしようもない。医療サービスの充実はもちろんだが、その前提として、気持ちよく診察を受けていただくことが大切。あってはならないことであり、しっかりと教育していきたいと思えます。

外来が午前だけのことについて。これは医師が不足していると午後にまで手が廻らない状況です。午後は入院患者さんの回診があります。しかし、今のご提言はしっかりと病院側に伝え、医療の改善となるようにします。今、雲南病院について詳しく説明する時間がないが、かつて30人の医師がいたのが今は18人。これは、雲南病院だけでなく、地域の病院はどれも同じ。これをどう改善していくか。今、市立病院化ということを打ち出されています。市民病院化により、フットワークを軽くして、島根大学医学部との親密な関係を築いていきます。これらをテーマにして雲南市庁舎の中で議論し、議会におかれても特別委員会で検討されています。今少し、お時間をいただきたいと思えます。（市長）

### 大東町佐世地区 公立雲南総合病院の人事について

Q356

雲南病院支援の会立ち上げと人事関係について、昨年の12月15日市長、副市長、担当部長にお会いし支援の会立ち上げについてご理解いただいた。すぐ大東町の振興会幹部にお話し、立派な支援の会の立ち上げをした。ところが4月1日病院の統括副管理者内田氏を任命し二人制となったが、この必要性はなんだったのか。新聞報道等もあり市民はいろいろ心配している時6月21日内田氏が退任を発表された。その後、後任はいまだに発表されていないが必要がなければ何故内田氏の選任がなされたのか。市長は市民に説明する必要がある。また、6月28日木次町において「雲南医療を考える会」が行われた。その際市長のメッセージがなかったのは残念に思うが、その際意見の中で院長代理の松井先生より「病院関係の事で再度新聞報道がなされイメージが悪くなり残念に思う」と発言された。議会で市長立候補の質問があり、市長は立候補を表明された。市政運営は大変であるが、市発展のため努力を願いたい。

A：雲南病院の支援の会については、大東町・加茂町で発足いただいて大変感謝しています。雲南病院で働いていらっしゃる、先生・看護師・事務職の方それぞれに大変心強く思っていることと思えます。これからしっかりと応援いただきたいと思えますし、雲南市も市立病院化に向けた検討を進めています。支援の会、市民の皆さんの声をしっかりと受け止めて進めていかなければならないと思えます。

## 平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

次に統括副管理者の問題ですが、雲南病院の置かれている状況は、大変な医師不足、看護師不足、医療費の改定ということで、国の政策、大学病院の実態、こういった事に起因すること誠に大です。従って雲南病院内部の経営内容の分析、それを踏まえた改善、それをやっていくのに加えて、県とか国とか大学とかこういったところの交渉を今まで以上にやっていくためには、行政経験豊かな人材が、常勤の管理者としてやっていかなければ、なかなかできる事ではないという状況があります。現在、雲南病院の管理者を市長である私がやっていますが、本来の市長としての業務があるので常勤の管理者としてやっていくことができないもどかしさがあり、副市長にその任にあたっていただいたところですが、ご承知のとおり経過で中途辞職されました。残念の極みです。常勤の副管理者をやっていただくには、やはり行政経験豊かな方でないと、なかなか任が重いということで、そういった視点で人材をということであるとなか見つからないということで、従って現在空席となっています。行政との関わりの深い常勤の副管理者の必要性は、今も感じているので現在も人材確保に努めていますのでご理解いただきたいと思えます。次に先般「雲南医療を考える会」に都合で出席できませんでした。代わりに畑副管理者が出席し意見を述べました。管理者としては、是非医師及び看護師の確保対策、市立病院化の検討、そういったことを進めていくと同時に、今後雲南病院がどういった役割をどういった方向に見定めたらいいのか、いずれかは方向性を出さなければなりません。そういったことで市の中で検討プロジェクトを立ち上げ検討しているところです。（市長）

### 大東町大東地区 後期高齢者医療における保険料について

Q357

保険料は2年ごとに見直しということで、仮に減免措置があったとしても、高齢者の割合が増加するにつれて、当然、保険料も上がることが予想できるがどうか。

A：後期高齢者医療制度の保険料について料率改定は2年ごととしていますが、医療費推計も増加しているので確実に上がっていくものと思われまます。（市民部）

### 大東町大東地区 後期高齢者医療における医療サービスについて

Q358

後期高齢者医療制度は総額医療費制度(主治医を指定し月6000円の定額払いの制度こと?)となるので、専門医に診てもらえなくなる。医療サービスの低下につながるのではないか。

A：医療サービスについては、今のところ、今までの老人医療と同様に高額療養の負担限度額もあるので懸念されるようなことは起こっていません。（市民部）

### 大東町大東地区 後期高齢者医療における短期証・資格証について

Q359

保険料を滞納した場合、短期証または資格証の交付を受けることになる。短期証は3ヶ月で更新の必要があり、資格証は病院窓口で医療費を全額支払わなくてはならない。それで、病状が悪化するまで病院に行かなくなる。これは、市民の安全で安心なくらしに大問題である。雲南市内で短期証・資格証の発行は何人いるのか。

A：後期高齢者医療制度では、保険料の徴収が始まったばかりであるので該当者はいません。国保の方では、合併時に収納率が下がり、収納に不公平があってはならないということで短期証・資格証を発行しています。

しかしながら、本当に生活が困窮し保険料が納められない方には何らかの対処が必要と考えています。雲南市では国保の短期証・資格証の発行数は概ね約100世帯ぐらいです。（市民部）

## 平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

### 大東町大東地区 後期高齢者医療制度の根本的見直しまたは撤回について

Q360

後期高齢者医療制度については十分な医療サービスが受けさせることができないということで島根県医師会も反対している。問題があるこの医療制度の根本的見直しまたは撤回を国や県の方へ申し入れいただきたい。

A：後期高齢者医療制度は制度そのものが複雑で資格証の発行など懸念される問題もあり、見直しが必要な場合は声をあげていくべきだと思います。ただ、増加する高齢者の医療費を誰かが負担しなければならないのも事実で、制度改正については国民全体で論議していく必要があると考えます。（市民部）

A：医療費および保険料を増やさないためには、まずは、病気にならないように毎日を過ごすことが大切です。

島根県の後期高齢者医療制度は、これを預かる広域連合で運営されていますが、医療費の推移をしっかりと見極めて将来に備えて対策を講じていかなければならないと思います。

制度撤回の意見については、現実的な問題について、色々な不備事項を適宜指摘しつつ制度を育てていくことが現実に即した対応策であると思います。県広域連合理事及び市長の立場として撤回を求めるのではなく、あるべき姿の提言を国に示していき、その役割を果たしていかなければならないと思います。（市長）

### 大東町塩田地区 高齢者が安心して暮らせる地域づくり(福祉・医療関係)

Q361

雲南病院の問題、お世話にならざるを得ない状況の中、いわゆる緊急外来、夜中の診療を受け入れてもらえないとか、また医師不足のために休診の科もある。病気になったときにどうするかという事も考えておかなければならない。独居老人の問題であるが、民生委員の話もあるが緊急通報システムなどどのような対応してもらえるのか、以上がお年寄りの安心安全な地域づくりということで、お聞かせいただきたい。

A：過疎化が進む中で高齢者が安心安全な地域づくりのご質問ですが、手元にある資料で65歳以上の人口に対する高齢化率について、今年の3月末の数字で雲南市全体の高齢化率は31.6%、大東町で31%、塩田地区で41.4%という数字であり、大東でいちばん高い地域です。少子高齢化の中でますます数値が高くなると予想され、安心して暮らせる支援体制、介護予防体制等大変重要になってくると考えています。

先ほどあった元気な高齢者に対するサービスはどんなものがあるかということですが、高齢化の時代の中で健康づくり活動や介護予防活動など通じて、誰もが将来健康で生きがいを持って暮らせる取り組みが重要と考えています。

雲南市は介護状態にならないようにというための予防事業として三刀屋町に開設した「身体医学研究所」の指導により、転びにくい身体づくりのための検査予防教室の開催、地域での健康づくりのための身近な運動指導員の養成、ケーブルテレビで健康づくり体操の放映、介護予防講演会等取り組んでいます。また社会福祉協議会などに委託して、認知症の予防やら閉じこもり予防・うつ予防のためのはつらつデイサービスなど取り組んでいる所です。

これらの取り組みはサービスの一部ですが、その他のサービスの内容やさまざまな相談、情報提供など総合的な支援窓口として大木原の所にある大東包括支援センター・大東健康福祉センターを開設しているので、気軽にご利用いただきたいと思います。

次に、先ほど説明した地域交流センター構想の中で、更に地域ぐるみで健康づくり、介護予防活動など取り組んでいただく事は大変重要な事と考えています。地区民全員参加による支え合い、助け合いによって誰もが生涯健康で活き活きと暮らせる地域づくりをお願いします。また、緊急通報システムの話がありましたが、独居高齢者の緊急時の対応は、これまで市が貸し出しをしている緊急通報装置であり、緊急時には消防署へ通報が行くようになっています。



## 平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

当地区では3件あると認識しています。今後の進め方としてNTTなど民間の媒体を利用する通報システムがあるようで、そうしたものに補助をする形で導入してはという方向で検討しています。これは先ほどの消防署へ通報するシステムとは機能的に良い機能をもっており、例えば独居高齢者の方と都会に住んでいる若い方があるとすると、ボタン一つでいろいろな情報が行き来できるシステムと聞いていますが、そうしたところの普及も考えていきたいと考えています。

次に、雲南病院の地域医療の確保という部分ですが、市長が話したように雲南病院の経営が大変厳しい中で、経営健全化に向けた取り組みを行っている所です。今後地域における雲南病院としてどうあるべきかという部分では、近いところで方向性が出せるのではないかと考えています。

先ほどの具体的な話として雲南病院の休日、夜間の救急外来対応についてご心配いただいているところですが、それも先ほどらいの医師不足が従来の対応が出来にくくなった原因です。

常勤の医師の数も平成14年をピークに現在18人まで減少している状況にあります。特に内科医の減少が著しく、10人いた内科医が現在3人という状況であり、内科系の救急対応は事前連絡性ということで対応されています。場合によっては他の病院へ転送されるケースがあります。病院でも最大限医師確保について努力されており、また、雲南市としても県、国に対し機会あるごとに医師確保の要望をしています。なかなか十分な結果が見えてこない状況であり、引き続き精一杯努力をしていきます。

（健康福祉部）

### 大東町幡屋地区 公立雲南総合病院の健全化について

Q362

雲南病院の経営改善に向けて市民により取組まれているが、副管理者が就任2、3ヶ月で退任された。地域も(再建に向けて)協力している最中にも関わらず、こんなことで公立雲南総合病院の再建は可能なのか。今後の考えを伺う。

A：経営悪化の一番の原因は医師不足です。原因は、平成16年の研修医制度変更によるもので、地方病院共通の課題であり、(医師確保のため)大学病院、大学医学部、国、県と連携強化を図ることが必要です。

管理者は市長であり、それにかかりきりになることが出来ません。病院の副管理者は内部処理で一杯で、医師不足に対応するため副管理者が必要と考えていました。副市長が2人いるところは松江市、出雲市、安来市であり、浜田市は旧町に6名の助役が置かれています。雲南市は、2名体制としていましたが、内田副市長には内々に退任の意向であり、4月から病院の副管理者に就任を頂きましたが、止む終えない事情で退任されました。

(病院には)交渉役専任の常勤副管理者が必要であり、適任の方がおられれば就任していただきたいと考えています。資本投資になりますが経営改善につながるものと確信しています。(市長)

### 大東町久野地区 後期高齢者医療について

Q363

後期高齢者医療について、口座振替のことをテレビ等で言っている。減税措置が可能とテレビで言っているが、ここ(今晚の資料)には全然書いてないがどうなのか。

A：家族の方の口座から保険料を納付すれば、その方の社会保険料控除の対象となります。(市民部)

Q364:[関連質疑]

そうであれば、(今回配布した)説明資料にも表記すべきではないのか。

A：8月5日に県広域連合から後期高齢者の皆さん直接に通知していますし、ケーブルテレビでもお知らせしています。

本日の資料には入れておりませんでした。お許し頂きたいと思っております。(市民部)

## 平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

### 大東町久野地区 横山医院の診療所への補助について

Q365

木次町横山医院の診療所について、当初幾らかの補助を頂いて運営をしていた。大体1週間に1回来られて3人から5人が診療を受けていた。個別往診もあった。これまでの補助金は電気代・水道代等であり、金額は3万くらいだった。そう大きな金額ではないが、補助金をぜひ続けてほしい。

A：施設の経費補助ということで少額ではありますが、3万とか5万とかいう部分で敷地料とか電気代とかいう話でこれまで来ていたが、廃止の対象になっているのではないかという趣旨のご質問だと思います。

手持ち資料もなく承知していない部分がありますので、今少し状況を把握させてもらいながら対処すべきは対処したいと思います。（健康福祉部）

（保留事項への対応）

9月9日、健康福祉部長、大東健康福祉センター長で補助金廃止の経過、理由等について質問者に面談の上、回答し了承を得ました。なお、この件については、地元連合自治会、同地区振興会、公民館関係者、大東総合センターで協議し、理解を得ています。